

ウチナ〜タイム!

No.64
7月
2021年



きいやま商店

沖縄県石垣島出身。兄のリョーサ、弟のマスト、従兄弟のだいちゃんの従兄弟・兄弟で結成されたエンタメ親族ユニット「きいやま商店」。ユニット名の「きいやま商店」は、3人のおばあちゃんが2015年まで石垣島で営んでいたお店の名前から命名。2008年結成。2011年に実施した沖縄本島合宿で一躍注目を浴び、沖縄ファミリーマートのテレビCMに大抜擢され話題に。2013年には石垣島新空港PRソング「おかえり南ぬ島」をBEGINとのコラボユニット「ビギやま商店」として発表し、さらに「カチャーシ☆ブギ」がNHK「みんなのうた」で放送されるとその名は全国区へ。2015年にはBSフジ『be ポンキッキーズ』でガチャピン・ムックとともにレギュラー出演も果たす。生み出される楽曲は、身内ネタや方言満載の愉快なコミックソングを始め、バラードからアップテンポまでバラエティに富み、おもわず笑顔になるライブMCとパワフルなステージパフォーマンスは、老若男女問わず幅広い世代に支持され多くのファンを魅了。近年では日本だけでなくベトナム、台湾、タイ、マレーシアなどでのイベント出演も増え、アジアでも人気急上昇中!!

オキナワをもうちょっと知りたくなる フリーペーパー



連載

沖縄ビーチ巡礼
富山義則 フォトグラファー

沖縄をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズ。
また、ヤールが笑っている。
大城密

たるーの島唄コラム 関洋

空飛ぶあっちゃんの自由発想沖縄料理
沖縄料理研究家 高山 厚子

世界は泡盛でうまいく
岡山進矢
泡盛新聞東京支部長
泡盛トリコロール主宰

しりとりに絵コラム
ちんだみ日和
田所ヨシユキ

information & present

ナゴラブ
名護を楽しむ情報サイト

「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。
シーサー玉城ギャラリー

Cover



きいやま商店プロフィール

沖縄県石垣島出身。兄のリョーサ、弟のマスト、従兄弟のだいちゃんの従兄弟・兄弟で結成されたエンタメ親族ユニット「きいやま商店」。ユニット名の「きいやま商店」は、3人のおばあちゃんが2015年まで石垣島で営んでいたお店の名前から命名。2008年結成。2011年に実施した沖縄本島合宿で一躍注目を浴び、沖縄ファミリーマートのテレビCMに大抜擢され話題に。2013年には石垣島新空港PRソング「おかえり南ぬ島」をBEGINとのコラボユニット『ビギやま商店』として発表し、さらに「カチャーシ☆ブギ」がNHK『みんなのうた』で放送されるとその名は全国区へ。2015年にはBSフジ『be ポンキッキーズ』でガチャピン・ムックとともにレギュラー出演も果たす。生み出される楽曲は、身内ネタや方言満載の愉快なコミックソングを始め、バラードからアップテンポまでバラエティに富み、おもわず笑顔になるライブMCとパワフルなステージパフォーマンスは、老若男女問わず幅広い世代に支持され多くのファンを魅了。近年では日本だけでなくベトナム、台湾、タイ、マレーシアなどでのイベント出演も増え、アジアでも人気急上昇中!!

きいやま商店ミニアルバム「アカサタナ」2021年4月28日リリース!

きいやま商店、3年ぶりの新作は盟友、ナオト・インテライミプロデュース!

きいやま商店らしさはもちろんそのままに、笑えて泣けてチルれる、新しいオキナワンミュージックが完成!

<http://kiiyama.jp> (公式サイト)

沖縄ビーチ巡礼 第4回「夕陽とビーチ」

写真・文 富山義則/フォトグラファー

とみやまよしのり

1953年生まれ。フリーランスフォトグラファーとして出版を中心に数々の仕事をこなしながら、自然や歴史をテーマに数多くの写真展を催している。1970年代から90年代にかけて人気を博したカウンターカルチャを代表する「別冊宝島」の表紙や「田舎暮らしの本」などを手がけ、2016年には、2008年に生産が中止となった期限切れのボラロイドフィルムを使った写真集を出版するなど、この斬新な試みも注目される。



「伊江島タッチューの夕陽」

「オイッ!」 「オイッ!」

備瀬崎の海岸からエメラルドビーチに沈む夕陽を撮影しようとカメラを構えてる時だった。

「オイッ、こっちだ。こっち」

後ろの空き地に止めてある軽トラックの運転席にいる男性が声をかけてきた。振り向くとジューッとこっちを眺めている。何か文句でもあるのだろうか。

「オイッ、写真は撮れたか」

「撮れましたよ。きれいな夕陽でしたね」

「そうであるな。今日の夕陽はなかなかよるしい。水平線のところまで、沈む太陽がはっきり見えたからな」

ずいぶん詳しく夕陽の話をするので興味をそそられた、車のところに行って顔の額を見ると初老のオジイだ。

「オジイ、ずいぶん詳しいね」

「当たり前さあ、毎日ここに夕陽を見に来てるからよ」

えっ、毎日夕陽を見に来てるって。そんなオジイがいるとは驚いた。

「今日の夕陽は上等。いつもは雲に邪魔されるな。最後が見えないからな」

オジイの話では、ぼくは運が良かったらしい。そんなに夕陽好きのオジイなら、きっと一番好きな光景があるに違いない。

「伊江島に沈む夕陽が一番上等さ」

冬になると太陽の沈むポイントが北西に移動してくる。そうすると、ちょうど伊江島タッチューにかかる夕陽が見える。その時が一番だという。

「沖縄一番の夕陽であるな」

うれしそうに話をするとオジイはエンジンをかけて去っていった。

沖縄では西海岸であれば東シナ海に沈む雄大な夕陽が各地で見られる。これが沖縄のビーチ巡りの楽しみの一つでもあるのだ。そこで今回は印象的だった夕陽のビーチを紹介して行こう。



「アラハビーチ」

ちなみに、私のお勧めの夕陽ポイントはたくさんあるのだ。たとえば、これまで一番赤く染まった夕焼けを見たのは、北谷のアラハビーチである。そのときは、周りにいたウチナンチュ達も「アキシャミー」と感嘆していた。この時の写真はあまりに赤いものだから、画像に手を加えているように見られてしまう。決してそんなことはしていない。数年に一度そのような夕陽が沖縄に出現するそうだ。



「瀬長島の夕陽」

現在は公園が整備され、立派な商業施設も営業している瀬長島だがここからは慶良間諸島に沈む夕日を見ることが出来る。以前は愛の島、瀬長島と呼ばれていた。理由は海辺に車を止めて那覇空港を発着する飛行機を眺めながら遠瀬を楽しむカップルがたくさんいたからだ。今でも昼どきになると休憩を取る営業マンの車で駐車スペースが埋まることも。那覇市からもっとも近いサンセットポイントだ。



「名護湾の夕陽」

イルカの里として知られる名護湾も名護湾沿いを走る58号線や21世紀の森公園から見る夕陽は見応えがある。季節によって変わるが、部瀬名岬の先端に夕陽が沈む風景は何とも言えない荘厳な光景だった。

その他離島の夕陽



「西表島/月が浜」

西表島には大好きなサンセットポイントがある。しかしながら大規模な開発により風景が一変してしまった。ホテルがオープンする前の月が浜は静かで趣のある大好きなビーチであった。ここに沈む夕陽を見るためにモクマオウの林の中を落ち葉を踏みながら砂浜まで歩いていくのが楽しいのだ。残念ながらここは開発されてしまい、取り付け道路がビーチ間際にまで作られたので昔のような雰囲気は無くなってしまった。くっ、惜しい。ビーチには開発反対の看板が立っているのが物悲しい。それでも、夕方になると地元の人が犬を連れて散歩したり、カップルらしき人影があらわれて沈む夕陽をじっと眺めている。これ以上開発が進んで風情がなくなることはないようにと願うばかりだ。



「宮古島/砂山ビーチ」

宮古島にも夕陽を見るのにはとても良いビーチがある。ひとつは砂山ビーチだ。ここは吹き抜けになった洞穴が特徴なビーチである。これがパワースポットになっているのだろうか、砂浜にある流木に腰を下ろした若い女性が、祈るように洞穴に沈む夕陽を眺めている姿を見かけたりする。



「大神島/タカマ」

宮古島から船で10分くらい東へいったところに大神島がある。最近まで一般の人が上陸することはできなかった。神の降りる場所がある神聖な島だからだ。島には宿泊施設や売店などないので、観光客が気軽に行ける島ではない。しかし、港の近くにタカマという場所があり浜辺がある。ここからは宮古島に沈む夕陽が見られる。

「タカマから見る夕陽は上等さ」

大神海運の乗務員から聞いた。しかし、問題がある。夕陽を見ていると宮古島行きの最終便に間に合わないのだ。宿泊施設を予約してから見に行かねばならない。先述したように以前の大神島には食堂も宿泊施設もなかったが、港の近くにオープンした施設があるので便利になった。



「竹富島/ナーの浜」

竹富島の西棧橋のそばにあるナーの浜あたりも夕日を眺める良いスポットだ。この浜の入り口には安里家ユンタに歌われている、悲恋物語の主人公クマカの遺跡があるので、恋人同士には良いロケーションだろう。静寂な風景の中を太陽が西表島や小浜島の島影に沈んでいく姿は感動を覚える。



「琉球古道を歩く」
沖縄の自然の中に残されている
琉球王国の遺跡を巡り歩く

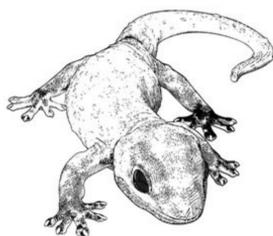
著者 富山義則

また、やーるーが笑っている。

大城密/作家

第45話 『パナマ帽』

あれは僕が小学校3年生の頃だっただろうか。
 母が出かけているのをいいことに、クーラーをガンガンにして漫画を読んでいた。
 夏休みの昼頃、一人で家にいるとチャイムが鳴った。
 当時は母と二人で二階建てのアパートで住んでいた。わざわざ訪れる人間といえば自分の友達くらい。情性でつけっぱなしになっていたテレビ番組の司会者の笑い声。サングラス越しの目が笑っているかどうかは確認できない。
 「はい、ちょっと待って」
 黒く焼けた裸足。ぺたぺたとフローリングを蹴って歩く。
 さてさて誰が来たのだろうか？
 楽しみにしながら玄関のドアを開くと、そこに立っていたのは曾祖父だった。
 白い開襟シャツに紐状のポーラー・タイ。紐を留める十円玉のような茶褐色のアグレット。ダークグレーのストラップに雪駄。度の強い黒縁メガネ。
 杖と扇子で両手は塞がっている。
 そして頭にはパナマ帽。
 南米のパナマ草というのを使って編み込みで作った帽子だが、沖縄ではアダンの葉で作られていたそうだが、その当時の僕はそんなことは知らない。
 暑い沖縄の気候によく合い、麦わら帽子よりも断然カッコいい。
 僕が幼少の頃はそんな格好をした爺さんたちが少なからずいた。曾祖父は洒落た方だったんだと思う。
 「あれ、じいちゃんなんで……」
 あまりにも意外な来客に驚いてしまう。なんたってこっちは同級生が立っているものだと思っていたのだ。
 ちなみに僕の祖父は僕が生まれる前に亡くなっており会ったことがない。両親は離婚をしているため、僕の「じいちゃん」と言えば曾祖父を指す言葉だ。
 「ちょっと散歩で近くを通ったからさ。お母さんは？」
 お母さんとはつまり自分の孫娘のこと。曾祖父の住んでいる首里の老家から僕の家までは三キロほどある。沖縄の真夏の日差しの中、汗を滲ませて歩いてきたのだ。
 「用事に出かけてる。あと一時間くらいで帰ってくると思う」
 「そっか」
 曾祖父はそう言うとニコニコと笑ったまま立っていた。ただただ立っていた。



「あ、上がる？」
 「うん。少し休んでいこうかなあ」
 曾孫に特大の気を遣わせた曾祖父は雪駄を脱いでドアノブに杖をかけた。
 確かにこれで杖を忘れて帰ることはないだろう。
 曾祖父はリビングのソファに座るパナマ帽を自分の横に置いた。頭頂部はほとんど禿げ上がっており、側頭部と後頭部しか髪の毛はない。いずれ自分もこうなるのかと未来をわずかに悲観した。
 僕はコースターをテーブルに置き、冷えた麦茶をグラスへ注いで曾祖父に出した。
 「ビールか泡盛はないか？」

「あ、ごめんなさい、家では誰もお酒を飲まないからないんだ」
 「灰皿くれんか」
 曾祖父は胸ポケットから紫色のラベルの煙草の箱を取り出した。確か名前はヴァイオレット。トントンと箱を叩く音がやけに耳に残る。
 「た、煙草も吸わないから灰皿もないや……」
 曾祖父は煙草をポケットにしまって麦茶を飲んだ。
 僕は曾祖父が好きだった。よく昔の話をしてくれたからだ。
 戦争の話やそれにまつわる話はとても怖くて苦手だったけど、面白い話もよくしてくれた。しかも話の途中でなんの脈絡もなく入れ歯を外し、僕を驚かせると同時に否応なしに笑わせる。
 一時間ほど話をしたときパナマ帽が目に入った。
 「じいちゃん、これかぶってみてもいい？」
 僕はいつも曾祖父のパナマ帽がカッコいいと思っていた。
 「かぶっていいよ」
 パナマ帽をかぶると思ったよりも大きく、僕の目まで隠れてしまった。
 染み付いてた煙草の匂いが鼻先に香る。
 それに混ざって曾祖父の匂いがした。
 それはいわゆる加齢臭というやつだったのかもしれないが、その時の僕はそんなことは知らない。
 「よく似合ってるな」
 「ありがとう」
 照れた僕はパナマ帽を元の場所へ置いた。
 「あ、そろそろお母さん帰って来ると思うよ」
 「じゃあ、そろそろ帰ろうかな」
 「え、会わなくていいの？」
 「別に散歩のついでだから」
 曾祖父はわずかに残っていた麦茶を飲み干し立ち上がった。
 玄関まで向かい雪駄を履き杖を持って振り返る。
 「ごちそうさま。お母さんよろしく」
 「うん、分かった。おじいちゃんも気をつけて帰ってね」
 僕は曾祖父を見送った。数分後に入れ替わるように母親が帰ってきた。
 曾祖父が突然訪れたことや、話したこととかを伝えると「あんたと話に来たんじゃない」と笑った。
 「それとさ、さっき気づいたんだけど、この帽子忘れてちゃったんだ」
 僕はソファに置き去りになったパナマ帽を再びかぶった。
 「欲しそうにしてたから、おじいちゃんわざと忘れていったんだと思うよ。おじいちゃん結構優しいところあるからね。もらっといたらいいんじゃない」
 確かに僕は物欲しそう顔をしていたのかもしれないし、曾祖父は優しい。お酒がなくても灰皿がなくても嫌な顔ひとつしなかった。
 「そっか……でもこんな暑い日に帽子なしで帰って大丈夫だったかな」
 窓から晴れた空を見上げたと同時にチャイムが鳴った。
 同時に玄関ドアをノックする音が響く。
 母が急いでドアを開けると、曾祖父が立っていた。
 「ああ、ごめん。帽子忘れた」
 僕と母は目を合わせて笑った。
 曾祖父は意味もわからずつられて笑っていた。

今回は『ゴーヤージュース』 お楽しみに！

大城密（おおしろひそか）

沖縄県出身、東京在住。エブリスタの「スマホ小説大賞2014」にて角川ホラー文庫賞を受賞。

『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズでデビュー。その他、チャット小説アプリ『peep』、DMMノベルアプリ、『TELLER』のライター。ゲームシナリオライター。



角川文庫

夏、君と運命の恋をするはずだった

— 元の世界に戻るために必要なのは、運命の出会い —
 時を越えてすれ違う二人に涙する、せつない青春小説



講談社

スマホでバズった怖い話 2

著：大城密、大石ロミィ、D.R. peep、cheerly、小狐裕介



講談社

スマホでバズった怖い話 1

著：大城密、雨宮真英、小狐裕介

「小説とコミックを同時に楽しめる！ 新しい読書体験しませんか？」新感覚ノベルコミック『peepとコミック同時』創刊！ 250万DL突破の大人気アプリ「peep」の100万回読まれた、小説とコミックを合わせた新形態シリーズとして書籍化！ スマホで100万回読まれた、あなたの隣に潜む恐怖の物語!! 穴の中に潜む女の目がどこまでも、追いかけてくるー。（「マンホールから覗く女」大城密）読んだら最後、日常に戻れなくなる「バズ怖」シリーズ第1弾、第2弾同時発売!

空飛ぶあっちゃんの

自由発想沖縄料理

～食は笑顔運び心を紡ぐ～

高山厚子/沖縄料理研究家

たかやまあつこ

1974年沖縄県旧羽地村（現在名護市）生。名護高校、琉球大学卒。元東京都小学校校長。沖縄料理研究家。修学旅行アドバイザー。執筆、講演活動、料理教室（自宅&出張）等で全国を飛び回る。NHKワールド・あさイチ等テレビ出演多数。琉球大学同窓会関東支部長。著作「緑のカーテンの恵みを食べよう」他。

第34回「ちんびん」って、なあ～に？「ぼうぼう」って、なあ～に？ 沖縄の（琉球王朝時代）宮廷料理だよ～

意外と知られていないね。この二つの違い。

「ちんびん」は、黒砂糖味のほんのり甘い、今でいう、おやつ（デザート）のようなもの。

小麦粉（薄力粉）と黒砂糖と水をこねたもの。

「ぼうぼう」は、（炮炮）と書く。小麦粉に水と塩を加えたもの。おかずの一つみたいなもの。

琉球王朝時代、小麦粉類は貴重品。塩も、黒糖も貴重品でした。特に、黒糖は、交易時代に盛んに取引されていたのです。

さあ、さあ、先月の紙のハイサイうちなータイム最終号でお取り寄せた沖縄食材を使って、籠りがちな日々をママゴト気分で料理して、自分流沖縄カフェを開きましょ！

まずは、この粉を使って、（前号での紹介メニューを除く）



裏の規定通りの分量/作り方でOK

「ちんびん」アレンジ編～

黒糖の優しい甘みが、沖縄の香り漂わせる上品な一品。

まずは、ボールに水で溶かした「ちんびんの粉」を中火のフライパンに油をひき、焼く。

プツプツと自然に穴が開くの。これが楽しいのよ（沖縄流にのんびりと火の調節を）



返して少し焼き、取り出してくるくる巻く。ラップを使うと簡単です（粗熱をとって）

そのままでも美味しい。でも、大きさ自由に、何枚か作って、好きなものをトッピングして色々楽しむといいよ。沖縄の海辺のカフェ気分でペロリしましょ！



①バニラアイスとあずき（小豆缶使用）のクレープ



②焼きリンゴ（リンゴをフライパンで焼いて）と生クリーム（アイス）のクレープ



③バナナと生クリーム又はアイスと（チョコチップがあれば）

《ヒラヤーチーミックスアレンジ編》

沖縄風アンダンスー（油みそ）を作る（今回は、味噌とツナ缶と沖縄コーレーグス（豆板醤可）を使用。

そのまま。中に入れて巻くだけでも美味しい。



今回は、冷蔵庫の中に鎮座していたものを利用。インゲンと人参を少々湯がいて、アレンジ油みそで炒める（ハム・ポチギも良い）



味噌味が相性よく、もっと、食べたくなる。

写真にはありませんが、キュウリを軽く塩もみして。他の具材とマヨネーズ味もよし。

更に、生地に残り物を入れて、ヒラヤーチーを焼き、その上に更に残り物の具材をのせて、とろけるチーズをたっぷりつけて、トースターで焼きました。

早々、出来上がりに、オリーブオイルをかけてね。（ケチャップなども好みで）



味噌ベースのピザの出来上がり。こんがり、焼きあがって、う～ん、うまいぞ！ビール&泡盛と良しで～す。真夏の沖縄時間をお楽しみあ～れ！

たる一の島唄コラム

第52回 ナークニーの原点と出会う

ナークニーの原点と言われる今帰仁ミャークニーの唄い手を探していた。探して探して諦めかけていると電話が鳴った。幸運にもその時沖縄にいたのですぐに今帰仁へ。教育委員会の方に紹介された古老の方は95歳。そう見えないほど饒舌に昔話などを語られた後、ご自分の歌三線をテープに録音したものを聴かせていただいた。

今帰仁の城 登て眺めれば 城石垣や昔語て

初めての今帰仁ミャークニーとの出会い。この方は平良正男さんというお名前だった。

驚いたのは三線の調弦である。普通ナークニー、ミャークニーといえば三下げ（さんさぎ）という調弦なのであるが、正男さんのは違っていた。二上げ（にあぎ）という調弦だった。

何故驚いたか？それが今日の話のミソなので後にしよう。

それからは正男さんのご長男、哲男さんが色々な資料や音源を送って下さった。そして今帰仁ミャークニーの工工四、つまり楽譜を私が起こした。それを元に哲男さんは2016年にタイムスホールで二上げの今帰仁ミャークニーをご披露されたのだった。



ところで今帰仁ミャークニーは、いつ頃から歌われていたのだろう。こんな歌詞がある。

謝名人の言しや岸本のミーグワや歌しじょうあしが恋やぶしじょう

今帰仁の謝名村の人が言うには岸本村のミーグワ（目の小さな子）の歌は情け深く上手なのだが恋は不得手だ、という意味。そのミーグワが平良正男さんの叔母さんにあたる。本名は花城カマド。なんと写真がある。



カマドは若い頃から歌が上手く、あちこちで歌わされたという。横にいる子どもは平良正男さんだ。今から96年前の貴重なお写真。カマドは琉球王朝末期に生まれている。

今帰仁には古い言い伝えがある。今帰仁ミャークニーの発祥は、首里にお勤めしていた青年が宮古のアヤグを聴いて感動し今帰仁に持ち帰って歌詞を乗せたという。

ここで読者の皆さんは覚えているだろうか。宮古島から渡って来たタカマサイという青年がアヤグを歌って多くの人々に感動を与えた事を。那覇の公園の名前にもなった。そのアヤグにも色々あるが、トーガニアヤグという宮古島を代表するアヤグは三線の調弦は二上げ。今帰仁ミャークニーも二上げだという事に何故私が驚いたか、もうお分かりだろう。

つまり、宮古島のアヤグ→今帰仁ミャークニーに生まれ変わった証拠、言い換えれば調弦が同じだという「へその緒」が今帰仁ミャークニーに残っていた。

今帰仁ミャークニーが生まれてしばらくして本部ミャークニーが出来たという。今度は調弦が三下げになる。その後には作られたミャークニー（今はナークニーと呼ぶ）も全て三下げなのだ。つまりミャークニーは三線の調弦を変えることにより大転換をしてナークニーに変身し、戦後の沖縄本島に広がっていったわけだ。

2006年までは行われていた今帰仁ミャークニー大会も開かれなくなった。歌い手が高齢化していることもあるだろうし工工四がなかったこともある。

そんな中、沖縄から訃報が伝えられた。昨年末、哲男さんが亡くなられたのだった。これからもご一緒に調べたい事が山ほどあったのに。しばらくは何も手につかない状態だったが、今帰仁ミャークニーを学びたい、歌いたいという方が次第に私の周囲で増えてきている。哲男さんのご遺志を受け継ぎ、これからも「ナークニーの故郷」今帰仁ミャークニーを大切にしていきたい。



YouTubeの「今帰仁ミャークニー」
(歌三線 たる一) に繋がります。

たる一（関洋）

宮崎県生まれ。広島在住。

琉球民謡協会教師。

ネットでお馴染みの「たる一の島唄まじめな研究」の著者。

広島で三線教室や「Y O U果報バンド」を主宰。

<https://taru.ti-da.net>

しりとり絵コラムちんだみ日和

第52回 古酒 (コース)

田所ヨシユキ/民謡歌手・シンガーソングライター・イラストレーター



たどころよしゆき

東京都江戸川区東小岩に生まれる。現在横浜市西区在住

27歳のときに沖縄に初旅行し、いろいろなインスピレーションを受け、以来沖縄通いが始まる。

30歳で会社員を辞め、漫画修行生活に入る。2年後にS社の青年漫画誌でデビューするもすぐにスランプに陥り書けなくなる。

フリーターをしながらブラブラしているときに最初の師匠と出会い唄三線を習い始める (37歳)。

2006年より沖縄民謡歌手・津波恒英に師事。

2008年 オリジナル島唄コンテスト「S-1グランプリ」にて『足テビチの女』でグランプリを獲得。

2009年 ラジオ沖縄主催オリジナル島唄コンテスト『第20回新唄大賞』にて『足テビチの女』で審査員特別賞を受賞。

琉球民謡未来協会 関東支部長・理事・師範。沖縄音楽民謡津波流 関東支部長・理事・師範。横浜敬絃会唄さんしん教室 主宰

趣味：料理、自転車、自動車、カメラ、テニス 座右の銘：悠々として急げ・漂えど沈まず・志

世界は泡盛でうまくいく

VOL.015 岡山進矢/[泡盛新聞東京支部長](#)・[泡盛トリコロール主宰](#)

世界は
泡盛で
うまくいく

岡山進矢 [泡盛新聞東京支部長]



フリーペーパーからオンラインへ舞台を移しての、泡盛コラム一発目。時期同じくして、道楽でやっている音声での泡盛情報発信もclubhouse（クラハ）からstand.fm（スタエフ）というアプリに軸足を移してみた。

同じ音声アプリだがクラハが井戸端会議だとすると、スタエフはラジオ番組。収録したものをアップしたり、リアルタイムの「LIVE」でリスナーやゲストと絡んだりできる。

先日そのスタエフで、八重泉酒造の新商品の「公開試飲会」をライブ配信してみた。ゲストは座喜味盛行社長。

きっかけは座喜味社長から、新商品のラベルデザインを含むディレクションを依頼されたこと。自分でも忘れがちだけど、私の本業はグラフィックデザイナーなのだ。

お仕事を始めるにあたりまずテイस्टィングをするワケだが、ただ黙々と味見してその感想をノートにメモ.....と一人でやってもつまらない。

「どうせなら試飲の様様をライブ配信して、不特定多数の人に聴いてもらいませんか？」とご提案。座喜味社長の快諾を得た。

未発売商品なのでスペックは伏せなければいけない。必然的に、お酒の素性説明なしに試飲の感想を述べるという謎配信になる。

謎を残した発信で消費者の興味を引き期待感を煽るやり方は「ティーザ」という広告手法だ。ふふふ、こちとらプロである。忘れがちだが。

とはいえスタエフはまだ利用者が少なく、当然私のフォロワーも極少数。どれだけの人に聴いてもらえるかわからないが、まあやらないよりはとりあえずやってみて、ちょっとずつでもログを詰んでいけば良い。

で、その「公開試飲会」だが、つつがなく終了。新商品のエゲツない美味しさを社長に向かって始終叫んでただけだった気もするが、その分リスナーにも伝わったと思う。

令和の世の情報発信。泡盛の世界にも、スタートダッシュ力のある蔵元さんたちの活躍が目立ち始めている。

せっかくだいたいだいた大仕事である。泡盛ファンも蔵元さんも楽しんでくれるようなデザインや発信ができれば良いなと思う。



シーサー玉城ギャラリー

VOL.01 シーサー玉城 / 画家・歌手・ラジオパーソナリティー



「描きたいもの」は、
沖縄の自然、生き物。

シーサー玉城
ギャラリー

「世界で1番愛を集める海」

「世界で1番愛を集める海」
アクリル画
原画F100 (1620×1303cm)
制作日 2019年5月

1997年普天間基地の移設先として辺野古が浮上した当時、「ジュゴンが棲んでいることを証明できれば、ヘリポート建設を阻止できるかもしれない」との情報を得、「ジュゴンネットワーク沖縄」の初期メンバーとして、私はジュゴンの調査をしていました。

辺野古の海は本当に豊かで、その生物の多様性は、2019年「ホープスポット(希望の海)」にも認定されたほどです。

さらに2019年2月に「辺野古新基地反対の署名」で、世界中から21万人以上の署名が集まった時は、こんな小さな島の海のことを世界中の人たちが守りたいと願ってくれていることにとても感動しました。世界中からの愛を受け、辺野古の生物たちはみんな笑顔で愛に溢れています。その愛が今度は沖縄から世界へ虹となって届きますように、そして実際にジュゴンが笑って暮らせる平和な世の中になりますように！

そんな願いを込めて描きました。



★シーサー玉城プロフィール

沖縄生まれの復帰っ子。関東を中心に活動する沖縄ポップスユニット・イチャリバーズのボーカル、イベント司会、川崎FM「琉球リミテッド」のラジオパーソナリティー。そして、2020年の2月に銀座で個展を開催し、画家としての活動も始めた。見ているだけで楽しくなる絵を目指し、沖縄の自然の豊かさと命の美しさ、光を描こうと奮闘中。過去には、ダイビングスタッフ、劇団の歌のお姉さん、結婚式の司会、漫才の舞台、ナレーションなどの経歴もある。またラジオ沖縄の「ハイサイ！藤木勇人のヤマト de 沖縄タイム！」のアシスタントに2020年10月から返り咲き。

◦主な活動

イチャリバーズ

沖縄県東風平町出身のスーパー元気歌姫「シーサー玉城」三線と二胡を奏でる宮古島生まれ首里育ち「豊岡マッシー」ワールドBEATな沖縄民謡アレンジとメロディアスなオリジナル三線曲。二胡の叙情的なサウンドから会場が一体となるカチャーシーでイチャリパチャョーデー（出会えば兄弟）精神で沖縄料理屋から野外イベント、ライブハウスに音楽ホール、ご宴会に結婚式、平和の集いや学校の授業まで。関東を中心にあらゆるところで今日も熱烈ライブ開催中！

画家・シーサー玉城

2014年比嘉美津子氏に師事、2015年たぶろう会初入選、2017年同会新人佳作受賞。2020年2月東京交通会館ゴールドサロンにて「シーサー玉城初個展」を開催し、画家になる。

「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。

自然の色にはいつも驚かされます。

海に潜って、色とりどりの魚、豊かなサンゴに出会うたびに、なぜこんな色に、こんな形になったのだろう？と生命の不思議とロマンを感じます。命を継ぐために、突然変異を繰り返し進化した結果、奇妙な形、奇跡の極彩色の生命を作りだしました。人間がどんなに想像を巡らし、技術を駆使しても、自然の創造物には勝てない。その美しさを私のフィルターを通して、描きたいと思うのです。

そして、沖縄の光がその彩色をさらに鮮やかにしてくれます。

私にとって、沖縄の光と命たちは、眩しくて心が躍り出してしまう。

なので都会に居ても、心が躍るような嬉しいこと、楽しいことがあった時、目の前に色鮮やかな魚たちが現れ、躍り出すのです。

詳しくは、ホームページをご覧ください。 <https://seasatamaki.fun>



琉球古道名護編！ text宮里英克

先日、「琉球古道を歩く」の写真家富山さんとジャパン・エンタテインメント・ツアーズ株式会社の田造さんとで、琉球古道名護編について第1回目の打ち合わせをしてきました。詳細はこれからですが、実施日程は12月の初旬になりそうです。

琉球王朝時代に整備されたスクミチ（宿道）国頭方西街道に残る史跡や遺跡を巡り歩いたり、沖縄の自然のなかで「毛遊び」を体感し、当時の優雅な琉球文化や歴史に想いをめぐらせます。

いかがですか？ おもしろそうですね！

楽しい旅になるかと思えますので、ぜひご参加を。ワクチン接種が進み、この頃には安心して旅行ができるようになってほしいと、切に願っております。

琉球古道名護編については、こちらのバックナンバーをご覧ください。2020.7月号



7月5日は何の日？ #75の日に乾杯！



(ナゴラブシャツを着てご機嫌な編集長みやざと。こちらは2020年の写真です)

そして！7月5日は何の日でしょうか？
 ナゴラバーでしたらご存知ですね（笑）
 そうです！名護の日です！！
 ナゴラブでは、素敵な企画をしていますよ

75の日生まれの方 🎂
 75の日が結婚記念日の方 🍷75にご縁がある皆さま！

おめでとうございます！
 ナゴラブでは、皆さんと一緒に記念の日をお祝いをするべく、プレゼントキャンペーンを開催します！

Instagramに#75の日にカンパイ をつけて皆さんの素敵な乾杯のお写真を投稿してください。
 抽選で後日、ナゴラブなプレゼントを差し上げます📺

〈プレゼント企画参加方法〉

① Instagram で『ナゴラブ』を登録

Instagram→https://www.instagram.com/nago_love.jp

② 7月1日(金)～8月1日(日)までの間に

#75の日にカンパイ で乾杯写真を投稿

後日抽選で、ナゴラブよりプレゼント差し上げます。
 ※抽選はDMにて当選の方のみご連絡差し上げます。
 ※基本、名護市営市場に商品を取りにきていただける方となります。郵送ご希望の際には、送料別途にてご相談賜ります。

参加資格: 75の日をカンパイしたい方ならどなたでも！
 みんなで楽しくお祝いしましょう！

information & present

OKINAWA オススメ情報

情報提供
(一財)沖縄観光コンベンションビューロー東京事務所



沖縄観光PR大使
花登マハエ

都心のスパで沖縄気分！タイムズ スパ・レスタ 【2021年沖縄フェア】



池袋サンシャインシティ前にある都心の大人のスパ施設「タイムズ スパ・レスタ」では、夏の恒例企画として 8/31（火）まで沖縄フェアを開催中です。

月桃、ハイビスカス、もずくの成分を配合した入浴剤を入れたOkinawa Bathやミネラル成分を豊富に含んだ久米島の海洋深層水バスを始め、日替わりで泡盛、シークワサー風呂などもあり、お風呂にしながら沖縄のリゾート気分をお楽しみいただけますよ。

沖縄の泥パック「くちや」を体験できるイベントや、沖縄フェア限定料理やドリンクもご用意しています。他にも、世界自然遺産登録を目指している「奄美・沖縄」の取り組みを紹介するパネル展示や沖縄に関する素敵な商品が当たるプレゼントキャンペーンも実施中。

沖縄の雰囲気や五感を堪能できますので、是非遊びにいらしてくださいね！

期間：6月1日（火）～8月31日（火）

場所：タイムズ スパ・レスタ

住所：豊島区東池袋4-2 5-9 タイムズステーション池袋10階～12階

営業時間：11：30～翌9：00

※新型コロナウイルスの情勢によっては、営業時間が変更になる可能性があります。

お問合せ先：03-5979-8924

URL：http://www.timesspa-resta.jp/campaign/okinawafair202105/



沖縄だ！はいさいフェスタ！



7/20（火）～7/21（水）の2日間、日本橋ブラザビル南広場にて「沖縄だ！はいさいフェスタ！」が開催されます。

沖縄県産品の青果物、お酒や食品類、お菓子などの販売や観光相談も行います。

旬な食材等を揃えてお待ちしておりますので、是非お立ち寄りください！

沖縄の眩しい太陽を浴びて育った野菜や果物を食べて、暑い夏を乗り切りましょう！！

開催日：7月20日（火）～7月21日（水）

時 間：AM10：30～PM5：30

会場：日本橋ブラザビル南広場

※JR東京駅八重洲北口より徒歩4分、地下鉄東日本橋駅B1出口から徒歩1分

住所：東京都中央区日本橋2-3-4

お問合せ先：沖縄県 東京事務所 首都圏営業課 03-5212-9087

注：今後の新型コロナウイルスの情勢によっては、中止・延期する可能性があります。

7月15日は「マンゴーの日」



©OCVB

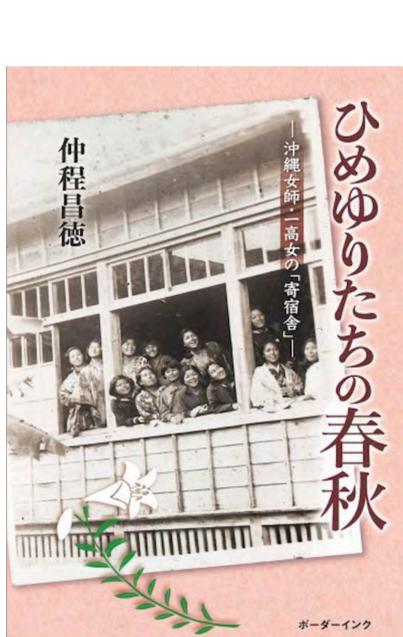
7月15日は「マンゴーの日」です！沖縄県では平成12年に、県産マンゴーをPRし消費拡大に繋げるためマンゴーの出荷最盛期である7月15日を「マンゴーの日」と定めたそうです。

そのジューシーな果肉と濃厚な味にばかり注目されがちですが、実は非常に栄養価が高く、ビタミンB1、ビタミンC等のビタミン類やミネラル、カロテンを多く含んでおり、美容効果や風邪の予防に効果があるとされます。

生で食べるのももちろんのこと、ジュースやゼリー、ジャムやドレッシングなど様々な味わいが楽しめますので、是非うさがみそーれー（お召し上がりください）！

ボーダーインクの本 電柱通りにある沖縄の出版社

ボーダーインクの本は、ホームページから購入できます



『ひめゆりたちの春秋 一沖縄女師・一高女の「寄宿舎」』
仲程昌徳著
1,650円(内税)

戦前の「ひめゆり学園」（女子師範、一高女）
その寄宿舎での日常と時代の足音の記録

1916年「ひめゆり学園」寄宿舎が落成してから、1945年3月22日、最後の留送別会がおこなわれるまでの出来事。

やがて悲惨な戦争に巻き込まれていく「ひめゆりたち」の青春の日々。

「寄宿舎についての「ひめゆり学徒」たちの話を聞きながら、彼女たちにも青春の楽しい思い出があったことを嬉しく思った。寄宿舎を取り上げた、大きな理由である。

ひめゆりたちの姿が、少しでも伝わってくれたらと思う。」（本書「あとがき」より）

今月の プレゼント！



きいやま商店ロゴタオルを2名様に！！

(サイズ約34×84cm)

7月の『ハイサイ！ウチナータイム！ファン倶楽部』プレゼントは

きいやま商店さんロゴタオルを2名様に(≒v≒)

《応募方法》

16日（金）19時に、LINEファン倶楽部会員様向けに『合言葉』を配信しますので、その合言葉をメールにてご応募してください。たくさんのご応募お待ちしております！